

## 新しい口腔ケア手法に応用する口腔ケア用ジェルの開発

○小田川 拓矢、菅 武雄、奥野 典子、森戸 光彦

鶴見大学 歯学部 高齢者歯科学講座

【緒言】「口腔ケア」という用語の広まりと共に、その内容についての発展が求められているが、介護や看護の現場では十分とはいえない状況がある。特にわれわれが注目しているのが、重度の要介護高齢者および急性期の意識障害を伴う患者の器質的・機能的な口腔ケアについてである。これら対象者は口腔機能の低下もしくは停止により口腔乾燥状態を呈し、高度の口腔ケア介入が必須の状態にある。

【方法】われわれはこれまでも高度な口腔ケア介入が必要な場合、口腔粘膜の保湿が機能的口腔ケアの前提条件であることを報告してきたが、機能的ケアだけでなく器質的なケアも必須となる残存歯を有する対象者への口腔ケアの質を高めることが求められる。そこで、器質的ケアと機能的ケアを総合的に提供する手法の開発に取り組み、口腔ケア用のジェルを開発した。この新材料は器質的ケア（ブラッシング）時に

咽頭落下させない（ムセ対策を盛り込んだ）口腔ケア用のジェルで、ブランクや剥離上皮と共に吸引除去するものであり、日常的には口腔粘膜に塗布することにより保湿による粘膜保護を行い、日に数回のケア時にはマッサージ等の機能的ケアにも用いることができる性質を盛り込んだものである。

本法の効果測定は平切りブラシと給水吸引ブラシ（東京技研製「ビバラック」）による口腔ケアにジェルを用いることによる効果を測定し比較検討した。

【結果】口腔ケアに要する時間や咽頭に落下させてしまう水分量などの比較から、口腔ケア用のジェルを用いたケアの有効性が示差された。

今回は、この新材料を用いた新しい口腔ケア手法の提案と、開発した口腔ケア用ジェルについて報告する。